

## 授業の玉手箱

### 学習意欲を高めるストラテジー

中井 弘一

学習意欲とは、「自らすすんで学習しようとする気持ち」である。この意欲がなければ学習効果は期待できない。「馬を水辺に連れて行っても水を飲ませることはできない」という格言がある。馬の気持ちと人間の気持ちが同じでないように、教師の期待する気持ちと生徒のやる気は同じではない。ただ、すべてのことにやる気を示すことはあり得ないし、すべてのことに全くやる気がないということもあり得ない。やる気はどの生徒も持っている、ゼロということはない。英語教師にとっては、"In language teaching, teachers can provide all the necessary circumstances and input, but learning only happen if learners are willing to contribute." である。

学習意欲を高めるための学習環境や教材提示のアイデア例をわざわざかであるが簡単に紹介する。

#### 教室環境の工夫

- ・ 教室内に楽しい雰囲気を作る
  - 楽しい英文メッセージ学習ポスター、英語新聞をたくさん掲示して、英語教室の雰囲気を作る
- ・ 学習をサポートする資料掲示
  - 教材に関する楽しい資料を掲示する（生徒の制作を含む）
  - 教材に関してなるほどと思う知的な資料の掲示（図解などの工夫を取り入れて）
  - 先生からのワンポイント・アドバイスを掲示する
  - 教材に関わる英語クイズを作成し掲示する

#### 教材を学習者に関連深いものに

- ・ 教材研究を徹底し、日常体験と教材背景との関連づけを工夫する
- ・ 多様な音声表現の導入：様々な音読を提示する（複数ALTによるシチュエーション設定読みなど）
- ・ 音読活動を工夫する（音読はリスニング向上につながるように）
- ・ 学習の興味をひく楽しいタスクの工夫：異文化との接触・若者文化・目新しい活動・空想を取り入れる活動・競争的な活動・挑戦的な内容を含む活動などを盛り込む
- ・ 自分の考えを述べる活動の工夫：生徒の活動を増やす

#### 具体的な目標を持たせる

- ・ 学習到達目標を明確に具体的に設定し、達成感を持たせる
- ・ 授業で行う活動の意義を十分理解させる
- ・ ほめることばを工夫する（goodだけでなくなぜ、どこがいいのかをきちんと述べる）
- ・ 達成感を目に見える形で：頑張りシール・班対抗等の競争などを活用する

#### 学習契約を交わす

- ・ 生徒の努力目標を書かせると同時に、その目標に対する先生の支援の約束や生徒の成果に対する評価を楽しい契約書として生徒個別に作成する。
- ・ 学習進度パスポートを作成し、課題達成ごとに国別の通過スタンプを押して、頑張ったことを褒めるコメントを添える。

#### 家庭学習のストラテジーを定着させる

- ・ 基礎的な内容で分かりやすい復習ノートで学びの定着を図る
- ・ 授業後、更に突っ込んだ考えを促す課題を毎回提示する
- ・ チャレンジングで楽しい課題を提示する
- ・ 様々な勉強の仕方をそのねらいとともに話す

## 書籍紹介

『異文化トレーニング ―ボーダレス社会を生きる― [改訂版]』  
八代京子、町恵理子、小池浩子、吉田友子著 (2009) 三修社 3,045 円

「異文化理解」は中学・高校の英語教育の主要構成要素の一つで、外国の文化や外国の人々を紹介する形で教科書の中でも積極的に取り上げられている。実は、文化と言語の関係性は、人間の無意識レベルの深いところにまで及んでおり、文化を超えたコミュニケーションにおいては、まず違いが存在することを認識し、なぜそのような違いが生じるかを考えた上で、効果的な（通じあえる）コミュニケーションをとっていくことが必要である。その意味で、英語教育は、異文化コミュニケーションの深層に横たわる文化と言語の問題を取り扱う直近の現場であるといえる。

本書は、異文化コミュニケーションを専門分野とする著者らが、生活習慣や価値観の異なる状況下でお互いにわかり合うために必要な態度やスキルをわかりやすく解説している。また、本書には多数の異文化トレーニング問題が収録されており、それらの問題に取り組むことによって、私たちは、異文化に接する際に知らず知らずのうちに行使している自文化中心主義的な考え方やステレオタイプの見方に気づくとともに、柔軟な思考と態度を養うためには具体的にどのようなスキルが必要かを知ることができる。学習指導要領で指摘されている「共感的な理解によって相互の立場を尊重し合える態度を育てる」具体的方策の一つとして、異文化間コミュニケーションの観点は示唆に富むものであり、本書は、英語教育に携わる教師にコミュニケーションの本質に近づく道筋を示してくれる良書である。

なお、本書の筆者、八代らによる近著『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』（三修社、2010）は、文化軸を180度転回して、外国語としての日本語教育の観点から異文化コミュニケーションスキルを解説しており、併せて推奨したい。英語教師のいわば“影武者”向けの当書を読むと、英語教育でなすべきことがより一層明確になるから不思議である。

(東條 加寿子)

### 編集後記・第8回勉強会(案内)

3月11日東日本大震災で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。国難とも言えるこの事態に何かできることを考えていきたい。2年目を迎えるnewsletterも現場の先生に元気を与えるものでありたい。(ひ)

#### 第8回勉強会予定

平成23年5月21日(土)

東日本巨大地震発生から3日目、岩手県内で取り残された家屋の3階から3人のお年寄りの救出状況が映像で伝えられた。そのうちの一人のおじいさんが、テレビ局のマイクに、「チリ津波んときも体験してっから。大丈夫です。また再建しましょう」と笑顔で話した。このおじいさんの力強い不屈の気持ちこそ、教育の現場でも発揮すべきものであろう。

今回の勉強会では、中学校の岡先生に「元気が出る英語授業」についてお話をいただき、残りの時間を中井がお話します。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher-training Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号  
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>  
e-mail: [ttc@wilmina.ac.jp](mailto:ttc@wilmina.ac.jp)

